

分散会 1 4

司会者 松崎 展也

記録者 倉田 歩

会場責任者 村上 伸二

可児市 NPO 縁塾（岐阜県）

可児エンリッチプロジェクト

可児市では、平成 25 年度から主に高校生の「地域課題解決型キャリア教育」を県立可児高校と可児市議会、可児市役所、地元諸団体が連携し一体的に推進しています。この夏には、地域の様々な課題について「地元で頑張る大人や OBOG である大学生と高校生が対話をしながら、共に解決策を探り、学びを深める小規模かつ多様な場」を数多く実現。ここでは、可児高校の 1 学年生徒（全員）と 2~3 年生（希望者）がいずれか 1 つ以上の場に参加するという協働体制も図られました。今後もこのような学びの場を主体として地域の課題解決やまちづくりの取組を進めていきます。



角野 仁美氏

放課後子ども教室「生石子どもいきいき教室」（愛媛県）

「スポレク教室」

子どもたちの放課後における安全な居場所の提供を基本に掲げ、地域の方々の協力を得て、子どもの自主学習の習慣育成や体験学習、スポーツ、文化活動等を行い、心豊かで健やかな子どもの育成を図る放課後子ども教室「生石子どもいきいき教室」を行っています。毎日放課後、様々な教室を行っています。今年度より「スポレク教室」を取り入れました。ルールを守って行うスポーツ遊びの楽しさを伝えたく開始しました。



井上氏 三村氏

愛南町水産課（うみらいく愛南）（愛媛県）

「愛南町オリジナルぎょしょく教育の実践」（産学協働の魚食教育）

「社会総がかりで取り組む教育の推進」が、愛媛県の教育方針となっています。愛南町では、その特色の一つである水産業を生かして、オリジナル食育事業「ぎょしょく教育」を推進してきました。五感をフルに使って、「魚」について学ぶと共に、愛南ぎょレンジャーなる特産物にちなんだキャラクターを各小学校に創造したり、自分たちで考えた魚料理（レシピ）を地元のレストランへ提供したり等の取組が実践されてきました。そこからさらに、進展をみせた「ぎょしょく教育」は、地域振興まで



兵頭 重徳氏

深く根付き、地元産業と教育活動の融合という行政と学校と地域が一体となった取組となっています。そして、その「ぎょしょく教育」は今、東京をはじめとする県外へも輸出され、愛南町の魚たちが県外の給食食材として活用されるまでに発展していきました。

分散会のねらいについて（村上伸二）

- 実践交流が主なねらいである。また、交流をしていく中で、自分たちのアイデアになるものや協力者になるような人とのつながりをつくれたらよい。

角野仁美（新潟県大学教育学部3年）

- 可児市人口約10万人（40万世帯）、名古屋に近く、若者が都会に出てしまう傾向にある。そのため、平成24年度から地域課題解決型キャリア教育（通称：可児エンリッチプロジェクト）に取り組んでいる。
- 可児高校の取組についての紹介と大学生 week について
 - （三村） 大学、学部選びのミスマッチがなくなるのではないかと。どのようにして、声かけをして、参加者を募ったか。→プライベートネットワーク
 - （光沖） 大学に行かずに就職するという高校生はいないのか。→現状ではない。
 - （松崎） 地元で貢献したいという人材を育てるのが、今後の課題である。

井上隆雄、三村由美子（放課後子ども教室「生石子どもいきいき教室」）

- 放課後子ども教室推進事業の活動紹介
 - 月曜：自由教室、スポレク教室 火曜：絵手紙、手芸教室 水曜：工作教室、点字教室
 - 金曜：算数教室 土曜：げんきひろば年間12回年間6回理科実験教室 → 地元の人材を活用
- スポレク教室（平成27年5月開設）についての紹介
 - 登録者が予想以上に多かった→安全面、指導者の確保等を考慮して人数制限
 - （光沖） 放課後児童教室の開設について、学校は閉鎖的な面があるが…。
 - （三村） 松山は、学校敷地内で児童教室を行っている。スタート時の取組には、多少難しい問題もあった。
 - （蘭） 佐賀市では、市議が運営（運営形態は様々）①スタッフの確保をどのようにしているのか②年間活動計画について③けがの際の対応
 - （三村） ①自己のつながり等で確保（人件費は出せない）②年度当初に決定③保険があるが、保険内で対応できない場合も保護者に了承を得ている。
 - （柳瀬） 子どもの遊び場がなくなってきている。場の提供は、とても良い。
 - （三村） 公園でも「ボール遊びをしない」と掲げているところもある。
 - （光沖） 自分たちのところの行政では、制限を設けていない。
 - （村上） 50年代、公園で遊んでいてけがをしたことがきっかけで、公園内での遊びの制限ができていった。

- (柳瀬) 運動を経験していない若者が増えている。遊び場の提供について、空き家、空き地を提供して下さる地域の方もいる。
- (井上) 昔の子どもは怒られたら伸びていったが、今の子どもは怒られるからやらなくなる。どのように怒ったらよいのか。

兵頭 重徳 愛南町水産課 (うみらいく愛南)

- 大漁旗、愛南ぎょレンジャーの紹介
- 愛媛県の基幹産業は水産業 (養殖業)、愛媛大学と連携し、普及に努めている。
- 学校へは、総合的な学習の時間、社会科の授業内容等で進めている。
- 後継者・人材育成について

(井上) 松山市内で、愛南町の食材を食べられる店はないか。→現在ない。

(三村) 漁業従事者になりたい子どもに、進められる仕事か。

(松崎) 水産業にマイナスイメージがあり、きちんと教えてあげることが必要である。

(兵頭) 独自性を出していかなければならない。(誘致等)

(松崎) 地域発信をしているところはないか。(企業誘致、人材誘致)

(角野) ぎょしょく教育ステップ1について、学校との関わりについての質問

(兵頭) 社会科の授業に沿って、内容を作成している。

(柳瀬) 連携・融合ができています。主体性をもたせることが大事である。

(村上) 地域の特性を生かしたキャリア教育が必要である。ローカルに目を向ける。

<感想>

(蘭) 先進地の事例を学ぶことで、佐賀市の地域の活性化につなげていきたい。

(奥村) えひめイヌ・ネコの会の活動について→命の大切さを伝えてほしい。

(光沖) 西予市の愛護班キャンプについて紹介

(柳瀬) 文科省の地域プラットフォーム形成事業について紹介

(倉田) つながり大切にしていきたい。地域、異業種とつながりをもつことで、学校教育にも生かせることがある。

(松崎) 公民館と学校が連携、地域に根差した教育を実践している。

(村上) 多岐に渡る話合いができた。地域教育の根幹は、今の子どもたちが幸せかどうか考えることである。キーワードの一つは、「ローカル」である。地域教育の対象は就学前、それが土台となる場所である。